

市場で大きな支持を得る  
花王の機能性展着剤を一挙ご紹介

# 「機能性展着剤」

今使用している農薬の効果をより安定させたい。作物への付着を上げたり、雑草の枯殺効果を上げたい。こうした目的で、機能性展着剤(アジュバント)を利用する生産者が非常に増えています。今回は、全国でも使用者の多い「花王の機能性展着剤」をご紹介します。

農業の開発は日進月歩で、より効果の高いものや残効の長いものが種々の作物で開発、発売されています。しかしながらその一方で、天候不順や新たな病害虫の発生などで、病害虫や雑草の防除に苦勞されている生産者も多くいらっしゃいます。農薬の効果をもと安定させ、管理の負担を軽減したい。そうした思いをかなえるのが、機能性展着剤です。

## アプローチBI

登録作物が多く殺虫剤や殺菌剤、非選択性除草剤などで使用可能な機能性展着剤です。アプローチBIは植物葉のワックス層と同じ構造のエステル型の非イオン性界面活性剤が主成分で、作物に与えるストレスが非常に少ない展着剤です。



「アプローチBI」の最大の特長が散布する農薬の粒子を細かくし、植物体がいまや取り込めるようにする可溶性です。この効果で治療剤や散布した薬剤の耐雨性を上げます。また粒子を細かくすることで葉の表面にむらなく成分が行き届き、保護剤の効果を安定させます。濡れやすい作物、濡れにくい作物の両方で、付着量を安定させることができます。これも大きな特長です。北海道では「小麦の雪腐病、赤かび病」「ばれいしょの疫病、軟腐病」「てんさいの褐斑病」「野菜の病害虫」など、さまざまな場面で使用されています。

## スカッシュ

スカッシュはアプローチBIと同様、エステル型の非イオン性界面活性剤を主成分とし、油性の食品添加物をベースとしていることが大きな特長です。非常に濡れ性が高く、植物のワックス層に薬剤を染み込ませる効果があります。散布後の乾きも非常に早く、降雨が近い時や降雨の間での散布で重宝されています。



スリップスやアブラムシ等を包み込むように付着し、殺虫剤の効果をより安定させます。北海道では「キャベツのチョウ目害虫」「タマネギのスリップスや病害」「果菜類の病害虫」など濡れ性の悪い作物に対して使用されています。

## アグレイド

陽イオン性界面活性剤が主成分です。濡れ性は一般展着剤と同程度ですが、陽イオンの効果で病原菌に対し殺菌剤の取り込みを良くし、また細胞膜攪乱を引き起こすことで効果を安定させることができます。機能性展着剤の中では安価で使いやすいものとなっています。北海道では新顔の機能性展着剤で、一般展着剤の使用場面で使われ始めています。



## サーファクタント30

「サーファクタントWK」と同様の主成分ですが、選択性除草剤にも広く使用できるオールマイティーな除草剤専用機能性展着剤です。特長は「サーファクタントWK」とほぼ同様であり、除草剤の効果不足を感じたり、より高い効果を求める場面で活躍します。北海道では発売して間もなく、使用事例は少ないですが、道外では選択性除草剤に加入され広くその効果を発揮しています。



## サーファクタントWK

エーテル型の非イオン性界面活性剤を主成分とする、除草剤専用の機能性展着剤です。エーテル型の特長である高い濡れ性を持ち、雑草のワックス層を溶かすことで除草剤の成分を雑草の内部に届けることができます。それにより除草剤の茎葉処理の効果を安定させます。ただし、非選択性除草剤と成分登録のある除草剤でしか使用できません。北海道では「てんさいの除草剤」の場面で広く使用されています。



機能性展着剤は基本的に使用倍率が高く価格も高いため、散布コストは増加します。しかし機能性展着剤を利用した散布では、より効果が安定するため作物の防除管理が徹底でき、農作物の品質・収量の向上につなげることができるというメリットがあります。

また、農薬の効果が高まることで次の散布までの間隔を延ばすことが可能になり、圃場管理の負担軽減が期待できます。機能性展着剤を上手に組み合わせ、年間トータルでのコスト削減、作物の品質・収量向上を実現させ、豊穡の秋を迎えていただければと思います。

### ■各展着剤と特性

展着剤名	散布液100ℓ 当り使用量	特 性				
		湿展性	浸透性	分散性	固着性	懸垂性
アプローチBI	50~100ml	○	◎	○	○	○
スカッシュ	50~100ml	◎	◎	○	○	○
アグレイド	20ml	○	○	△	—	△
サーファクタントWK	50~500ml	◎	◎	○	○	○
サーファクタント30	100~300ml	◎	◎	○	○	○
一般展着剤	5~30ml	○	○	△	—	△

丸和バイオケミカル株式会社